

## 大業、檀越の信心によつて成就す

本誌「成寿」が世に出て丸四年を経過し、いま第八号の発刊となりました。この間、各号を通じて、留学僧の海外派遣に関する記事を主要な内容としてきました。この留学僧派遣は一寺院の事業としては他に類例を見ることのできない画期的な快挙として、国内はもとより、最近では国外からも注目されてまいりました。現に、十一月八日、パリで開かれる国際シンポジウムに出席して発表することの要請を受けているような次第であります。

太祖瑩山たからせういざんぜんじ禅師は「河谷山かうくさんじん未来際みらいさい置文おきぶみ」の中に、

仏のたまわく、「篤信とくしんの檀越だんごつ（注 檀家のこと）、これを得る時は、仏法断絶だんぜつせむせむニ云々」と。また云く、「檀那だんな（注 檀家のこと）を敬ふこと、仏のごつごつすべし、戒かい、定じやう、慧え、解げ、みな檀那の力に依て、成就じゆじゆす云々」と。

然る間、瑩山いざん今生の仏法修行は、この檀越の信心に依て成就す……

と述べておられますが、太祖様のお言葉によれば、私の今生の仏法修行、善光寺海外留学僧派遣の大業は、正に「この檀越の信心に依て成就す」と申すべく、ただただ感謝のほかなく、「檀那を敬ぶこと、仏のごとくすべし」と肝に銘じ、「篤信の檀越、これを得る時は、仏法断絶せざる」ことを確信するものであります。

さて、善光寺海外留学僧派遣事業は、国内的には一応、運営の態勢が整いましたので、今年を受入先の協力態勢整備に努力して来ました。すなわち、三月にはインドに、六月にはニューヨークの禅マウンテン・センターに、そして九月にはタイ国ワットパクナムに、それぞれ足を運び、挨拶と今後の協力をお願いして参りました。

さいわい受入先はいずれも好意的協力的でしたので、大いに意を強うして帰りましたし、海外生活を通して、広く世界に活眼を開く人材の育成の重要性をいよいよ強く感じております。今後一層の精進を傾注する所存ですので、檀信徒の皆様には倍旧の御協力御支援をお願いする次第であります。